



R5 八鹿っ子

～ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成～

150年間、夢と願いが集まり続けた場所で

□ 11月17日、八鹿小学校創立150周年記念演奏会を開催しました。保護者の皆様、地域の皆様に多数ご参加いただきました。

□ 演奏会のオープニングでは全校生が4年ぶりの全校合唱「はじまりの歌」を披露しました。『150年前の子どもたちも、この場所で夢を見た』という歌い出して始まるすてきな歌です。子どもたちの響き渡る歌声に心が震える思いがしました。

□ この場所は150年もの間、この八鹿小学校はこの町の『夢と願い』が集まる場所であり続けました。子どもたちの夢と、地域の願いが集まり続ける場所、それが学校です。150年に渡って送り続けられてきた『夢と願い』。今、そのバトンを握り150年という歴史の真っ先を歩いているのが246人の在校生たちです。この場所から新たな夢と願いを発信していく。そんな思いを込めた『はじまりの歌』でした。

□ そしていよいよJAZZユニット「あさやなぎ」の演奏です。ピアニストの田中愛子さんは本校の卒業生です。田中さんもまた、この八鹿小学校で夢を見たことでしょう。演奏されたのは、おしゃれにアレンジされたお馴染みの曲ばかりでした。かっこよくて楽しいライブに、参加者全員が引き込まれました。

□ 最後は4番までの完全版校歌の斉唱です。普段歌わない3番と4番ですが、これもまた格調高い歌詞です。150周年を機会に、全校生が歌えるようになりました。

□ 11月28日は150回目の創立記念日です。150周年という一つの区切りを迎え、八鹿小学校は、また新しい歴史を刻んでいきます。



全校生合唱「はじまりの歌」



田中愛子さん・勝地哲平さんの演奏

12月の行事予定

2日 (土) 身近な人権を考えるつどい 13:30 みふね会館 自治協クリスマス会 13:00	18日 (月) 教育相談 13:15
4日 (月) 歯の健康教室 クラブ活動(最終)	19日 (火) 音楽朝会 心の学習③2-1④6年 教育相談 13:15
5日 (火) 児童朝会 こころの授業③5年⑥2-2 歯の健康教室	20日 (水) 3年しめ縄づくり 給食最終日
6日 (水) お話広場(中) 2学期がんばりました集会	21日 (木) 3校時授業 地区児童会
11日 (月) 委員会活動	22日 (金) 2学期終業式
12日 (火) 全校朝会	25日 (月) 冬季休業日
13日 (水) お話広場(低) そうあんくんの日	27日 (水) 一斉に年休等を取得する日 そうあんくんの日
14日 (木) 代表委員会	28日 (木) 一斉に年休等を取得する日
18日 (月) 教育相談 13:15	

■ 青谿書院見学【4年生】 11月14日

青谿書院に出かけ、ふるさとの先人、池田草庵先生について学びました。多くの門人たちが志を持って学んだ青谿書院の中は、思わず背筋がピンと伸びてしまうような空気に包まれています。宿南自治協議会の皆様にお世話になり、草庵先生の生い立ちを描いた紙芝居を見せていただいたり、青谿書院資料館を見学させていただいたりしました。草庵先生や門人たちの精神を受け継いで、学ぶ事を大切にする八鹿っ子になってほしいと思います。



もみの木の年輪を数える4年生

■ 市長出前講座【6年生】 11月21日

広瀬市長におこしいただき、6年生が市長出前講座を受講しました。人口減少、少子高齢化という市の現状をわかりやすく説明してくださいました。市長は、伝統や歴史、文化といった養父市が元来備えているすばらしいものに、デジタルなどの先進技術を融合させることで、養父市の新しい未来を構想しておられます。6年生からも、たくさんの質問が出ました。子どもたちの質問は、どれもとても大切な問いかけに思えました。市長とじかに対話するという貴重な体験により、子どもたちは、ふるさと養父について考えるきっかけを与えていただきました。



市長と記念撮影

いのちは自分がもっている時間の中にある

11月の全校朝会では、6年前に105歳で亡くなられた日野原重明先生（医師）の「いのちのおはなし」という絵本を紹介しながら以下のような話をしました。この絵本は、生前、日野原先生が全国各地の小学校でおこなった「いのちについての授業」をもとにつくられたものです。

- 日野原先生は聴診器で子どもたちに自分や友だちの心臓の音を聴かせます。「見えないいのちが、形あるものとしてせまってくる瞬間」の子どもたちの様子が描写されています。その上で日野原先生は子どもたちにこう質問をするのです。「いのちは、どこにあると思いますか?」。そして「わたしは、こんなふうに考えています」と話し始めます。

いのちとは、きみたちの持っている時間です。

心臓は大切ですが、いのちそのものではありません。いのちを動かすためのモーターです。心臓が止まったら、人間は死んでしまい、使える時間もなくなるのです。

いま君たちは、どのようにでもつかえる自分の時間を持っている。時間を使うことは、いのちをつかうことです。これから生きていく時間。それがきみたちのいのちなんですよ。

（「いのちのおはなし」日野原重明：文 村上康成：絵 講談社）

- 11月の東井先生の言葉は「もう少し 多くの人によろこんでもらえることに 一生懸命になろうじゃないか」です。
- 「多くの人によろこんでもらえることに一生懸命になる」とは、どういうことでしょうか。「自分のいのち＝自分の時間」だとすれば、自分の大切ないのちや時間を、自分のためだけでなく、誰かのために使ったり、みんなのために使ったりすることになります。ものすごくねうちのあることです。尊いことです。でもそうやって私たちはどうにか生きていけるのですね。たった一人で生きていくのではなく、誰かに助けられたり、誰かを助けたりして、互いに支え合ってでしか、生きていけないのです。
- 「そうあんくんカード」を読ませてもらうと、お手伝いをしっかりと、自分のたいせつな時間を家族のために使う人がたくさんいることがわかります。そしてそんな人は、家族からよろこんでもらって、自分もうれしい気持ちになっています。よろこびは響きあうのです。よりよい「いのちの使い方」「時間の使い方」ができるようになりましょう。